

教育建設水道常任委員会行政視察結果報告書

平成26年 8月12日

教育建設水道 常任委員会	青 田 兆 史 委員長	佐 藤 和 之 副委員長	
	齊 藤 正 三	斎 藤 伸 幸	福 田 道 夫
	斎 藤 敏 夫	加 藤 雄 次	

◆視察項目

実施年月日	平成26年6月30日（月）～ 26年7月2日（水）		
視 察 目 的	1. 除雪対策について	北海道釧路市	
	2. 「こども遊学館」について（現地視察）	北海道釧路市	
	3. 「帯広の森運動公園」について（現地視察）	北海道帯広市	
視 察 先 概 要	北海道 釧路市	*人 口： <u>181,169</u> 人 *面 積： <u>1,362.75</u> km² *特 徴： <u>東北海道で最大の人口を擁する拠点都市。北は釧路湿原、阿寒の国立公園、南は太平洋に囲まれた雄大な自然に恵まれた道東観光の玄関口。タンチョウ、マリモの天然記念物をはじめ、温泉資源など魅力あふれる多数に地域資源を活かした滞在型観光のまちづくりに注力。また、阿寒湖の世界自然遺産登録に向け、地域一丸となって取り組んでいる。産業は、農林水産業、石炭、紙、医薬品製造業などが発展。釧路港は道内最大規模の穀物輸出入港。</u>	
	北海道 帯広市	*人 口： <u>168,057</u> 人 *面 積： <u>618.94</u> km² *特 徴： <u>北は大雪山系、西は日高山脈、東は白糠丘陵・阿寒などの豊かな自然に恵まれた十勝平野の中心部に位置。日本を代表する大規模機械化畑作・酪農地帯。都市部には大型商業施設や病院、公共施設など都市機能が充実する一方、農村部には広大な田園風景が広がる。快適な都市機能と豊かな自然が調和する十勝の中核都市。</u>	

◆視察結果（個別票）

個別項目	除雪対策について（北海道釧路市）			
	視察先担当課	都市整備部 道路維持事業所	添付資料	無

I 視察要旨

釧路市では、降雪による冬道の交通や安全確保のため、平成16年度から地域住民、市、除雪業者が連携し、地域に密着した効率的な除排雪を目指して「ブロック除雪」を実施している。

除雪工区を釧路地区においては地域内6つのブロック（阿寒地区2ブロック、音別地区1ブロック）に細分化し、それぞれ複数の除雪会社で構成する除雪業務共同体が除雪センターを設置、運営し除排雪を実施している。

今回これらの取り組みについて下記の項目において視察を行った。

- 1) 除雪計画やマニュアルについて
- 2) 国、道、市道における除雪業者の連携について
- 3) 除雪費用および財源について
- 4) 除雪後の雪捨ての現状について

II 事業の成果・課題

除雪概要

①除雪対象

交通量の多い幹線道路やバス路線、さらには市民生活に影響の大きい生活道路を中心に除雪対象路線延長を約1130kmとしている。（農村部の一部を除いてほぼ全線）

また、幹線や通学路で機械除雪の可能な歩道の範囲で約539kmの歩道除雪を行っている。

②除雪出動基準

幹線道路については積雪深が10cmを越した場合、生活道路については15cmを超えた場合に除雪を行う。

③出動体制

平成25年現在、146社でブロックを形成し、各々の除雪センターは11月中旬から3月31日まで、除雪作業の基地として除雪共同企業体の担当者が常駐し、市の指示により除雪を行っており、地域からの要望問い合わせの窓口となっている。また、各ブロック2台ずつでパトロールを行うことにより、きめ細かな除雪状況の確認作業を行っている。また、「除雪情報ダイヤル」を設置し出動情報の市民への提供を行っている。

④除雪費用

釧路市の除雪費（単独費）

	H23	H24	H25
当初除雪費(千円)	292,108	305,828	338,926
補正額	160,000	300,000	300,000
合 計	452,108	605,828	638,926
決算額	423,523	525,202	539,868
残額	28,585	80,626	99,058
補正回数	1	2	2

出動回数及び降雪量

一斉出動回数	4	4	3
年度降雪量(cm)	113	151	87

⑤除雪連絡協議会など

ブロックごとに設置され市民、市、業者の3者で計画書の作成や市民要望等の処理、各地区相互の連携、情報交換などを行っている。また、毎年秋口に国、道、市、警察等で担当者会議を行っている。

⑥排雪対策

積雪が多い重要路線で次回降雪の除雪作業に支障がきたす恐れがある場合は排雪作業を実施する。また雪捨て場を釧路地区では4カ所、阿寒地区では3カ所、音別地区では1カ所設け、市民にチラシ等で周知している。

課題

- ・ 除雪業者の確保
- ・ 道路わきに寄せている雪の苦情対策
- ・ 運転手の高齢化と機械の老朽化

Ⅲ 視察所見

視察市においては、除雪についての市民の協力、理解を得るためチラシ「くしろ雪ガイド」の全戸配布など、連合自治会を通じての住民周知が行われています。

当市としても道路の除排雪対策は市民生活の根幹であり、今年2月の大雪など昨今の気象状況を考えるとその迅速な対応が望まれているところです。

地域住民、市、業者の連携を核とした、高齢者や身障者にも配慮した除雪マニュアル作りに取り組むべきと感じました。

◆視察結果（個別票）

個別項目	釧路市こども遊学館について（北海道釧路市）			
	視察先担当課	教育委員会	添付資料	無

I 視察要旨

- ・ 施設運営の形態、事業数、利用者数
- ・ 子どもたちへの効果
- ・ 今後の課題や市民からの要望

II 事業の成果・課題

施設の目的

「こども遊学館」は、科学知識の普及啓発を図り、次世代を担う子どもたちが五感を通じた遊び、学びの多くの体験から豊かな感性、創造力、知的好奇心を高め各世代の人々が子どもたちのために協働し、互いに交流を深め、地域文化の発展に寄与することを目的に建設された。

建設の経過

1991年（平成3年）市総合計画に、全天候型市民広場、青少年科学館の改築、中央児童センターの建設事業が計画され検討が始まる。

1995年（平成7年）「こども遊学館」構想が了承される。

1998年（平成10年）市民による「こども遊学館を考える懇談会」設置。

2002年（平成14年）「こども遊学館をつくり・育てる会」が、施設実施設計及び管理運営の協議を行う。

2005年（平成17年）7月完成した。

「こども遊学館」は、科学館と児童館の機能を合せた施設であり、釧路シビックコア地区整備計画（地方拠点都市法）により、42億円（41億円の起債と補助）を投じて建設した施設である。

計画から完成まで14年間経過している。この間、市長が変わり方針変更の話もしたが、予定通り建設された。

施設の運営は、指定管理者である釧路市民文化振興財団と NPO 法人こども遊学館市民ステージが事業と管理運営を行っている。

年間入館者数は、10万1878人（2013年度）である。

2013年度（平成25年）の収支状況は、観覧料収入2234万8千円、委託料1億2484万2千円、マイナス1億249万4千円である。

事業数は、特別事業や育成、天文、学習、ボランティアなど11種ある。毎月6項目、300回～350回の事業を行う。参加者は年間16万1千人である。

子どもたちに興味を持たせるために、サイエンスショーや毎月「特別事業」を企画している。夏休み企画は、「おばけで遊ぼう・おばけ研究室」を予定している

屋内の「国内最大級の『すなば』」（無料）があり、自由に子どもと遊ぶことができる。

大型プラネタリウムや風・振動・水・光などの実験を楽しく体験できる

スタッフは、21名（職員6名、嘱託10名、臨時5名）とボランティア213名が登録している。

ボランティアは、「自分の持っている技術や経験、知識を生かし、子どもたちと一緒によろこびや感動を分かち合いましょう」とサイエンスガイド、昔遊び、「読み聞かせ」や木工・紙工作など支援するために毎月募集し、研修・養成の努力をして「遊学館」を支えている。

今後の課題は、入館者を増やすための多様な事業をしっかりと計画すること。スタッフの育成とボランティアの組織を維持発展させることである。

Ⅲ 視察所見

市民参加による「こども遊学館を考える懇談会」や「育てる会」を設置し、長年にわたって、市民が参加し基本設計の検証や施設運営の検討をしてきたことは、市民が積極的に事業に参加する要因になっている。

ボランティア登録が200名を超えている。こうした人数を組織するための努力は、どんな事業にも共通するものである。

科学と遊びの体験を通して、子どもたちとボランティアが世代間、地域・文化の交流ができることは教訓的である。

屋内の『すなば』



◆視察結果（個別票）

個別項目	帯広の森運動公園について（北海道帯広市）			
	視察先担当課	生涯学習部スポーツ振興室	添付資料	無

I 視察要旨

昭和 63 年にスポーツを通じて躍動する豊かなまちを目指して「健康スポーツ都市」を宣言し、帯広の森運動公園内に各種スポーツ施設を次々と整備した。平成 21 年には、国内で 2 例目となる屋内スピードスケート場（明治北海道十勝オーバル）が完成し、ワールドカップなどの国際大会が開催され「スケート王国・十勝」を、世界に発信している。今回、これらの施設の建設の経緯や維持管理等について次の項目について視察を行った。

- 1)、建設開始の経緯、初期費用、年間維持管理費用について
- 2)、国際及び国内大会等の大会開催や合宿誘致活動について
- 3)、各施設の利用実績について

II 事業の成果・課題

昭和 58 年から、帯広の森運動施設区内に体育施設の整備を進めて、陸上競技場、体育館、屋内スピードスケート場、アイスアリーナ、研修センター、野球場、屋内プール、弓道場、テニスコート、スポーツセンター等を完成させ、社会体育の振興に努めており、年間 116 万人の利用者がある。（参考としてこれ以外に 3 か所の運動施設があり全施設合計すると年間 157 万人の利用がある）特色ある施設として、平成 21 年に国内 2 例目の屋内スピードスケート場が約 60 億 71 百万円をかけて建設され、天候に左右されないスピードスケート競技に加え、コース内には、フットサルやテニス競技、外周にはランニングコースがもうけてある。更に、ネーミングライツ契約をして、施設愛称名は「明治北海道十勝オーバル」で、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点指定をうけている。また、アイスホッケーリンクが 3 か所あり大会はもちろん合宿等にも積極的に活用されている。また、運動公園内には各種の施設があり市民はもとより市外の人利用もある。各種大会の審判や指導には、帯広市体育連盟（43 団体）の協力があり有効な活用がなされている。冬季には、雪中パークゴルフ場も開設され年間を通じてスポーツに親しむことが出来る。

合宿については、平成 25 年度 121 件があったが内 80 件がスピードスケートであった。

主な施設については、昭和 59 年に財団法人帯広市文化スポーツ振興財団を発足させ、運営管理を委託してきたが、平成 18 年より指定管理者制度にて管理運営をしている。オーバル内には広告設置がされ位置により年間 45 万円、40 万円。野球場フェンスは 10 万円等として収入努力をしている。課題として、年々施設が老朽化してきていること、広大な敷地と施設の維持管理、更には年間を通しての誘客対策である。

Ⅲ 視察所見

現在までに、数多くの国際大会や国内大会を開催しており、有名選手も輩出し、将来の有望選手も育成し今後が期待される。環境が整備されていることは、選手はもちろん、市民のスポーツに対する理解や関心が高まり好循環となる。

合宿の誘致の対応も積極的であり、関東圏を重点とし各大学をターゲットとしている。更に、2020年に東京で開催されるオリンピック、パラリンピックに向けた合宿誘致の動きも着々と進んでいる、更には、2018年の韓国平昌での冬季オリンピックも視野に入れており、施設見学等の受け入れも積極的に取り組んでいる。

今回の視察で感じたことは、帯広市はもちろん全国の自治体がオリンピックを始めとしたメジャーな大会等の合宿誘致に積極的に取り組んでいることである。当市も早急に取り込む姿勢を期待したい。

屋内スピードスケート場外観（施設名称標記も商品ロゴと同じものを使用）



屋内スピードスケート場内部（明治北海道十勝オーバル）

